

# ＜競技ダンス部の活動から見た旧体の使い心地＞

2011.4.4 東京女子大学競技ダンス部OG 浦友子

東京女子大学の競技ダンス部は、東京大学競技ダンス部とともに60年の活動の歴史をもち、2009年に解体されるまで、ずっと旧体育館を練習の場としてきた。代々使い続けてきた旧体育館の使い心地は、競技ダンスの練習の場としても大変よかった。

## ●床の感触①—適度な滑り具合

ダンスを踊る場合、床に求められる感触は、まず適度な滑り具合であること。滑りが悪いと足さばきがしにくい、滑り過ぎても踊りにくい。ダンスは左右の足に体重を移動させながら踊るが、体重をまっすぐ足に乗せるには習熟が必要であり、ことに学生サークルの初心者たちには難しい。体重の乗せ方が傾いていると、その方向に滑ってしまうので、滑らないようにブレーキをかけながら踊ることになる。床に適度な摩擦があって、足の裏を受け止めてくれると、適度なブレーキを容易にかけることができるが、床がツルツルと滑り過ぎる場合はそれが難しい。例えば雪道を歩くようなもので、滑らないようにするために力むことになって、踊っていると足や脛ら脛などが非常に疲れる。

旧体はその点、適度な滑り具合で十分に足の裏を受け止めてくれたので、非常に踊りやすかった。旧体解体後は、新体育館棟の二階にある牟礼記念ホールを使っている。きれいにフローリングしてあるが、使ってみると滑りすぎて、踊るのには使いにくい。新しいためというよりは、床材の表面処理の問題ではないだろうか。

## ●床の感触②—適度な弾力性

床に求められる感触の二つ目は、適度な弾力性だ。ダンスの姿勢ではヘソを中心にして上下に体を伸ばす。まず下半身を下へ伸ばし、足の裏で床をグッと押しつける。すると反作用として、床から押し返す力が足の裏に加わり、その力が膝、腰と上がってきて、頭のとっぺんから天井へと抜ける。こうした力を意識することによって、体がまっすぐに伸びて、美しいラインが全身を貫き、それがダンスを踊る姿勢となる。だから足の裏で床を押した時、床から反発力が返ってくることが必要で、そのためには床に適度な弾力性がなければならない。硬すぎる床からは「反発力をもらう」ことができない。自然にダンスの姿勢を整えることができず、また無理に体を伸ばそうとするため非常に疲れる。

この点でも旧体の床は適度な弾力性を備えていて使い心地がよかった。現在使用している新体育館棟の牟礼記念ホールの床は硬めで、十分に反発力をもらいにくい。床材の問題というよりは、恐らく床下の構造が影響しているのではないだろうか。

## ●施設の用途による違い

新体育館棟の牟礼記念室は、体育館のフロアではない。多目的な用途で作られ、必ずしも運動やダンスをすることを目的としていないので、単純に体育館の床と比較することはできないのだろう。ちなみに、競技ダンス部は東京大学と提携して活動しているので、東大のキャンパスでも練習している。以前は同窓会館のフロアを借りていたが、取り壊されたためプレハブの建物を使っていた時期もある。

現在は駒場キャンパスの寮の跡地に建った東京大学駒場コミュニケーション・プラザで、舞台芸術実習室および身体運動科学実習室を使っている。運動時のパフォーマンスを意識して造られているためか、そのフロアは滑り具合、弾力性ともに適当で使いやすい。

なお、体育館であればどの床も同じような感触かという点、そうでもない。体育館の中にも滑りすぎると感じたり、比較的硬いと感じる床もある。

### ●解体前の状態

フロアの使い心地は構造や材質だけでなく、日常的な整備の仕方でも違いが出てくるのだろう。旧体の床はダンスの練習をした実感として、大変使い心地のよいものだったが、解体前の頃はメンテナンスが行き届かない面があると感じていた。部分的に床板の角が削れて隙間ができていたり、いたんでいるところもあり、踊っていてひっかかる感じを受けることもあった。

### ●フロアを掘り下げた構造の利点

旧体の場合、フロアが掘り下げられていたので、周囲の通路が高くなっていて、ちょっと腰掛けるのにちょうどよく、他の人たちが踊る姿を眺める客席のように使っていた。またダンスの場合は途中で靴を替えることがある。そのたびにロッカールームに戻るのは非効率なので、近くに置いておきたいのだが、フロアに置くと踊る邪魔になる。その点、旧体の場合は通路が高くなっていたので、そこに荷物を置けばフロアで踊る時に邪魔にならなかった。そうしたことも練習をする上で非常に便利だった。

### ●フロアの解放感

床そのもの以外にも、体育館の使い心地は優れていた。踊っていて、旧体ほど解放感にあふれたフロアはなかった。南側が全面窓になっていて明るいし、外の景色が眺められて、春には桜、夏には新緑がフロアで踊る者の視野にも入る。外の自然を感じながら踊る気分が、他にない解放感を生みだしていたと思う。体育館には普通大きな窓はなく、あっても壁の上の方だったりして、視野の届くところは壁に囲まれ、閉じた印象の空間であることが多い。

### ●音の反響がない

ダンスは音楽に合わせて踊るので、反響によって音にズレが生じると大変踊りにくい。現在使っている牟礼記念ホールは、それほど広い部屋ではないので音が反響して困ることはない。が、広くて天井の高い体育館では、反響によって音がズレることが多い。その点でも旧体は、広くて天井が高いにもかかわらず音の反響はなく、すっきりと音楽が聞き取れて踊りやすかった。

### ●他に類のない体育館

各地の体育館をいろいろ見る機会があるが、なかでも旧体は出色の体育館だったと思う。掘り下げたフロアも、南側全面の窓も、外の景色が眺められる構造も他に類を見ない。あれほど贅沢な体育館は、恐らく二度と造られることはないだろう。